

伝えたい
残したい
わがまちの
誇り



長野地区
Nagano

ふるさと の情景

VOLUME

8

長野地区

(古野山上講の行者まつり)



2



1



3



5



4



1行者堂前の護摩焚2大峯山登山では険しい所も(写真は約30年前のもの)3昨年5月の登山にて4山伏の護摩焚と祈禱の様子5行者堂には修験道の祖とされる役行者がまつられています

※行者堂は河内長野駅から北へ徒歩約8分。

行者まつりは、古野町の行者堂で8月に行われる伝統行事で、古野山上講の人たちによって、古くから守り伝えられてきました。毎年、不動明王の縁日である8月28日直前の土曜日に行われ、当日は行者堂の前にお供え物と提灯(ちようちん)飾り、小さな護摩壇を設けます。山伏が法螺貝(ほらがい)を吹いて入場し、護摩壇のそばに着席すると、祈禱(きとう)とともに護摩焚(ごま)が始まります。これにあわせて、参列した講のみなさんが行者堂にお参りします。

山上講は、かつては、市内の村々にあり、役行者(えんごうぎやう)をまつり、定期的の大峯山に登っていました。男性中心の組織である山上講は地域の若者が大人の仲間入りをする際の通過儀礼として、大峯山で修行させたと伝わっています。このような風習は次第に廃れてきましたが、古野山上講では、今も2年に一度、大峯山登山を行っています。

ふるさとのひと

大西康誠さん

市内でも数か所になってしまった山上講ですが、古野では今も伝統を守っています。若い人の参加が少なくなり、昔のように毎年大勢で大峯山を訪れることはできませんが、1月の初講と5月の当屋講(うちやこう)の年2回、講員約40世帯が集まる行事も続いています。この山上講があることで、住民同士の親睦を図れることが一番素晴らしいと思っています。これからもできる限り山上講を続けていきたいです。

